

# 兒童心理學文獻抄 十八

牛 島 義 友

## 子供の人物畫

書店。

「子供の繪」の本質に就て優れた説明が菅原先生によつて

併し簡単に兒童畫研究の状態を知るには次の論文がよ

本誌に連載されたが、之に對して敢えて蛇足を加へるつも

い。

りではないが、此の問題に就ては非常に多くの研究がなさ

竹田俊雄、兒童の繪畫、岩波講座教育科學・第八冊、昭和

れて居り、吾が國の文獻のみでも數十に上つてゐる。故に

七年。

是等に就て簡単な紹介をする事にした。

先づ子供が如何なる繪を好んで描くかに就ては今田氏の研究がある。

菅原先生の考察は兒童畫に就ての藝術學的考察ミ云ふ事も出來やうが、外山氏及び、檜崎・上阪氏の著書も此の方面

今田恵、幼兒の繪畫に關する研究、幼兒の興味、心理學論文集第四輯、昭和八年。

の參考文獻である。

外山卯三郎、兒童畫の藝術學的研究、建設社發行、昭和

氏は全國百二十四の幼稚園に依頼して園兒に自由畫を描

九年。

檜崎淺太郎・上阪雅之助、子供の繪の觀方ミ育て方、藤井

かせ、四千四百五十七枚の繪から考察して居る。此の中には實に色々の物が描かれて居り、二百二十五種類の事物を

擧げる事が出来る。之を二十三の項目にまぎめてその%を

示す次の様になる。(同じ繪の中に數個の事物が描いてある場合には別々に計算する)。

(順位)	(事物の種類)	(百分比)
1	形物	60.47
2	物物	38.09
3	物屋	35.69
4		34.28
5		30.22
6	候氣象	22.35
7	天旗	19.78
8	天家	17.38
9	の設備(土木)	10.95
10	造物(土木)	8.23
11	構圖	6.57
12	無意味	6.26
13	不動明	5.00
14	線畫	4.82
15	物	3.97
16	字數部分	3.93
17	文家玩	2.74
18	具遊	2.54
19	錯武	1.57
20	衣事	0.67
21	公衆	0.67
22	建築	0.63
23	模樣	0.52

性別によつて見れば、相當著しき差異が見られる。即ち乗物、家以外の建造物(土木的)、旗、武者、事件は男兒の興味を多く惹き、家屋、植物、家の設備道具、玩具(遊戯)、衣服、模様は著しく女兒に好んで描かれる。動物、天體、家の部分は多少女兒により多く好まれる。人、天候氣象、地形、公衆建築、文字數字、構圖は性別が殆んど表れない。之で見ると地形を別とする人物を畫くものが最も多い。故にまづ人物畫に就て説明する。

青木誠四郎、兒童の人物畫についての發生的觀察、兒童研究所紀要第六卷。

東京市の幼稚園、小學校兒の描いた人物畫を發達的に見る次のやうな段階を経てゐる。

一、錯畫期の人物畫、此の期では只不恰な圓を描けばそれで人が描けたと云つて満足してゐる。

二、顔面興味時期、四、五歳から六歳の初めの時期で子供はまづ顔から描きはじめる。その顔にも段々分化が生じ、頭、眼、鼻、口等が描れて來る。併し體の他の部分例へば軀幹、手足等は只二本の線で現はされる位である。

三、四肢分岐の時期、六歳から七歳になるに描寫の興味は手足の方に向ひ、體と足とは別々に描かれて來る。即ち知能年齢五歳兒の中軀幹と四肢とが分れて居る者は二十二名の中十四名であるが、六歳兒では三十三名中二十八名となつて居る。手と足ではまづ足の方が先に分岐する。又手足の指等も描れる様になる。手を描く場合には手が頭から出るものと胴から出てゐるものがあるが前者は知能年齢の低い者に多い。又此の時期では顔面の方も一層精密にな

り、眉、鼻等も描かれる。

四、衣服描寫の時期、七歳から八歳に至り衣服が描れる様になる。此の衣服もはじめは觀念的に單に記しをつける程度であるが、後には帶、衣服の模様を描く様になる。

	年齢	五歳	六歳	七歳	八歳
衣服なきもの	%	九一	六六	一三	〇
衣服あるもの	%	九	三四	八七	一〇〇

尚その他身體各部の描寫の發達を見るに、口は最初は直線又は圓で現はされるが、後には一の形となる。眼は圓又は直線で描かれ、眉は早く描れるが、眼球はおくれる。頸は餘程後にならないと描かれない。

男女の區別は四肢分岐の時期では毛髮の有無で區別される丈であるが、衣服描寫期では着物の形、模様の差で現はして居る。

之を全く同様な研究が、三田谷・岩岡氏によつてなされて居る。此の方は關西の幼稚園兒に就て青木氏と同様な發達段階に分けて考察を深められて居る。

三田谷啓、岩岡園子、兒童の人物畫に就ての觀察、兒童

研究所紀要第十一卷、

尙小學生の人物畫に就ては筆者の研究がある。

牛島義友、兒童畫の發達について、兒童研究所紀要、第十四卷。

人の繪を描けと命ぜられた場合に完全な全身を描かず只顔面丈、半身丈を描くものが低學年に多い。即ち彼等は人間の特質を現はす重要な部分丈現はせば満足してゐるのである。所が小學上級では必ず全身を描き、又手には杖とか鐵砲とか袋を持つて繪の内容を豊かにして居る。此の事は體の各部分に就ても云はれる。低學年に於ては顔の各部分は比較的詳細に描くが、手足、指等は簡單な線で現はす丈であるが、上級なる體の一部分丈を特に詳細に表現する様な事は無くなり、身體各部が一樣に注意され、顔面と靴とは同等に取り扱はれて居る。

頭部を全身の大きさの割合を見ても同様な事が云はれる。低學年では頭は全身の三分の一位の長さを占めてゐるが、上級では全身の二割位に減ずる。

次に繪の輪廓線を見るに低學年のものは只體の部分を現

はしてゐるに止まるが、上級のものは形狀を現はしてゐる。即ち前者は圓、四角形等で頭部、胴體を現はすが、その形は實際の體の形に似もつかぬものがある。それにも拘らず彼等は平氣でそれを許し敢て修正しやうとはしてゐない。之に反し高學年の者は實際の形を現はす事に腐心し、形が出来た迄は何度も描き直してゐる。従つてその描きぶりも低學年の様に奔放自在でなく、一本の線にも注意を拂ひ、をづくを従つて固苦しい形式なものとなり勝ちである。

以上の人物畫の變化を見るに知能の發達に應じて進歩して居る。故に兒童畫によつて幼兒の精神發達を計る企が米國のグッドエナフ女史によつてなされた。此の方法が吾が國に於ても數氏によつて適用されて居る。

桐原葆見、自由畫テストとその規準(幼年兒童の精神發達査定尺度)昭和五年山越工作所。

同、自由畫による幼兒の精神發達測定、兒童研究所紀要第十三卷。

氏は中國地方の都會及び農村の幼稚園、小學兒童の三千

四百二名に白紙に鉛筆を與へ、男の人の繪を描かせた。此の繪を次の様に採點して行く。

A 何を描いたか不明のものは零點

B 次のものを描いてゐればそれ／＼一點宛を與へる。

- 1、頭、2、脚、3、腕、4 a、胴、4 b、胴の長さが幅より大なるもの、4 c 肩、5 a、腕脚の付方のやゝ正しいもの、5 b、腕脚が胴の正しい所につけられたもの、6 a、頸、6 b、頸の輪廓 7 a、眼、7 b、鼻、7 c、口、7 d 鼻口が輪廓あり唇二枚のもの、7 e、鼻孔、8 a、毛髮、8 b 毛髮が頭の輪廓以上に描かれてあること。9 a 衣服、9 b、衣服の標徴二個以上(帽子、帶等) 9 c 衣服が透明畫でないこと。9 d 被服の標徴四個以上、9 e 不合理なく衣服の種類が描かれたもの、10 a 手指、10 b、指の數、10 c 指の細部、10 d 拇指の區別、10 e、掌、11 a、肩、腕の關節、11 b、脚の關節、12 a、頭の割合、12 b、腕の割合、12 c、脚の割合、12 d、足の割合、12 e、腕と脚とのつり合ひ、13、踵、14、描線、15 a、耳、15 b、耳の位置及大きさの正しきもの、16 a、眼の細部、16 b、瞳、16 c 眼の割

合、16 d、眼の向き、17 a、額及顎、17 b 顎の突出、18、横向き、以上の點を合計して其子供の得點とする。

次に各年齢に於ける得點の男女合計の平均を示す以下の如くなり、九歳までは殆んど直線的に進んで居り、それ以

年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12
年數	4	5	6	7	8	9	10	11	12

8.21 13.01 19.42 22.3 26.19 30.69 33.17 34.92 36.55

13 14

37.38 37.96

上は緩慢である。之を基として年齢基準を立て、あるが、併し此検査法は十三歳以上のものには適用されなく、且最も有効には七歳以下のものに適用される。此自由畫テストによる精神年齢、智能指數は相當信頼が出来る。何故ならば幼稚園児に一ヶ月間四ヶ月毎に繰返して検査した結果は相互の相關が非常に高く(〇・七以上)なつて居り、又他の精神検査(久保氏十一年法、ビネーシモン法)との相關も同じく高い。もつとも學業成績との相關は高學年生に於ては低い。

家庭の生活條件の影響(中間階級と労働階級との比較に

より)は著しくなく従つて此検査法は斯るものを超越して適用し得る事を示して居る。

尙卷末には採點の例を示し、智能指數の一覽表が加へられてある。

桐原氏と同様な研究をその他の人も企てゝゐて、此自由畫検査が智能検査として適當なる事を證して居る。

丸山良二、描畫による幼児の智能の測定、心理學論文集第一輯、昭和三年。

岩田艶子、描畫による幼児の智能測定、兒童研究所紀要、第十一卷。

去る五月一、二日の兩日は福岡市に於て中國、九州、四國保育聯盟總會が開催せられました。會員三百餘、熱心なる諸氏により、澤山の協議、研究の發表等がなされ非常な盛會でありました事は斯道の爲、洵に喜ばしいことと存じます。

尙その詳細は本誌次號にて發表せらるゝことと思ひます。